

古代中国占いの源泉

…陰陽五行の法則…

第5回 八卦と易

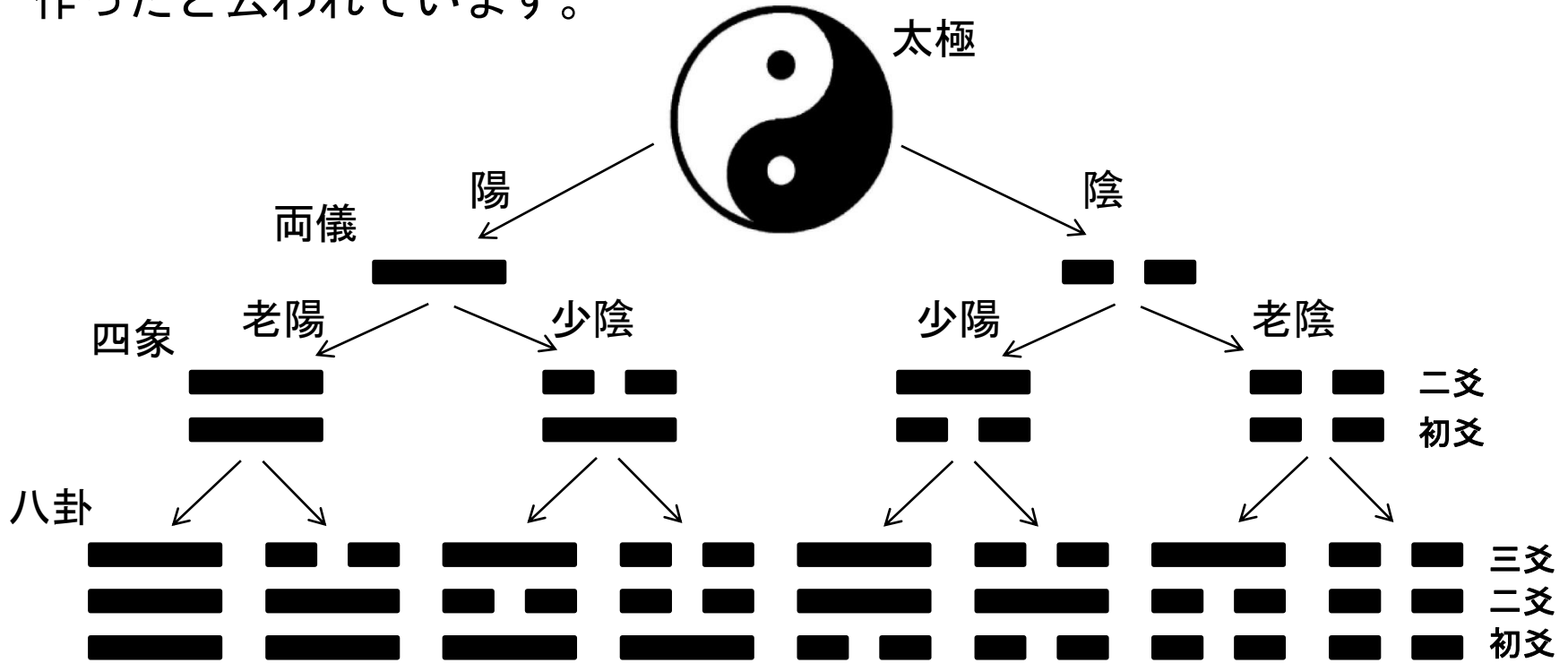


講師 池本正玄



陰陽五行と八卦

八卦は古代中国神話に登場する伝説上の皇帝伏羲が天地自然に象って作ったと云われています。



乾	兌	離	震	巽	坎	艮	坤
天	沢	火	雷	風	水	山	地
父	少女	中女	長男	長女	中男	少男	母
陽金	陰金	陰火	陽木	陰木	陽水	陽土	陰土



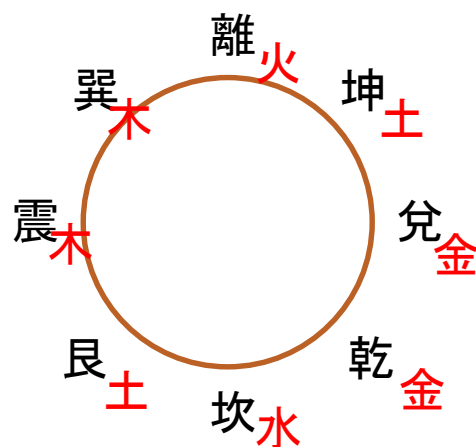
八卦の意味

乾	兌	離	震	巽	坎	艮	坤
けん	だ	り	しん	そん	かん	ごん	こん
天	沢	火	雷	風	水	山	地
☰	☱	☲	☳	☴	☵	☶	☷
父	少女	中女	長男	長女	中男	少男	母
健	説	麗	動	入	陷	止	順
首	口	目	足	股	耳	手	腹
北西	西	南	東	南東	北	北東	南西

先天八卦図



後天八卦図



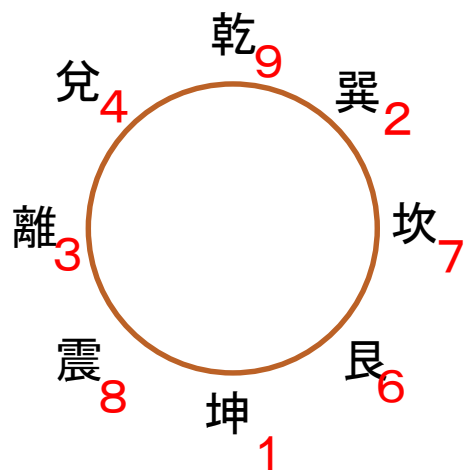
洛書



先天八卦と後天八卦の関係

乾	震	坎	艮	兌	離	巽	坤
☰	☳	☵	☶	☱	☲	☴	☷
父	長男	中男	少男	少女	中女	長女	母
9	8	7	6	4	3	2	1

先天八卦図

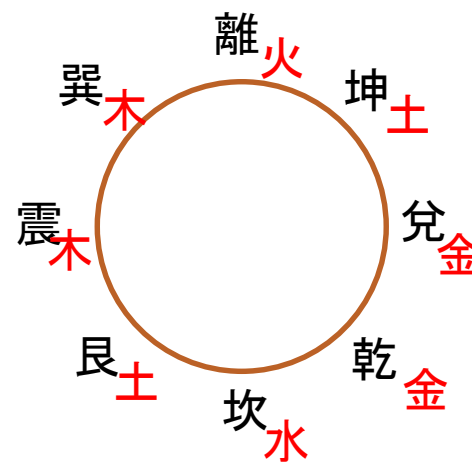


洛書

南		
4	9	2
3	5	7
8	1	6
北		

各宮45度

後天八卦図



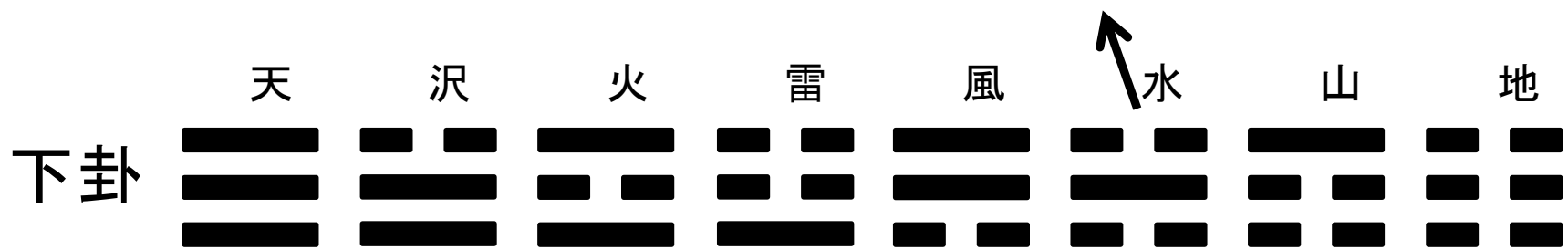
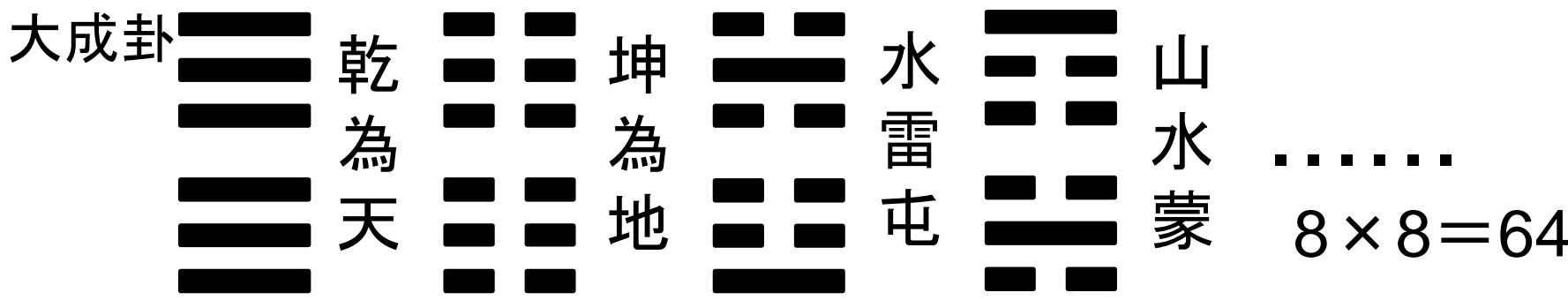
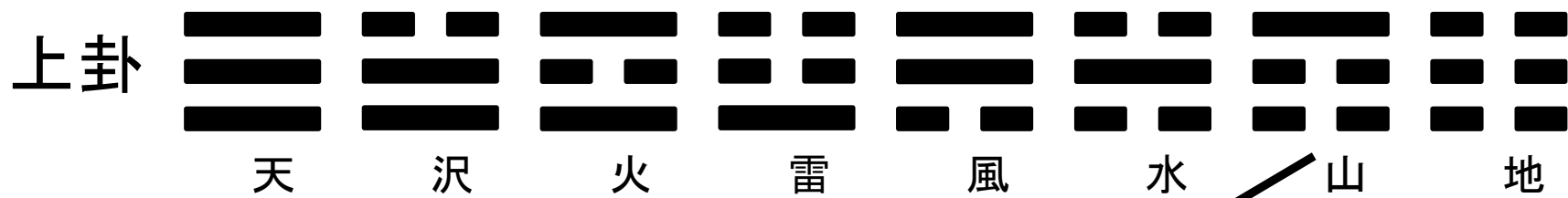
河図

2	火
3	木
5	土
4	金
1	水

先天八卦図と後天八卦図は洛書を通して表裏の関係になっている。
 また、後天八卦の五行は河図と同じである。
 中央の土5は八卦の観察者本人を示す。



六十四卦と易經-1



序卦伝

有天地，然後萬物生焉。盈天地之間者唯萬物，故受之以《屯》。
 《屯》者，盈也。屯者，物之始生也。物生必蒙，故受之以《蒙》。









.....

六十四卦と易経-2

1番 乾為天













卦辞 乾。元亨利貞。

爻辞

- 上爻  上九、亢龍有悔。
- 五爻  九五、飛龍在天。利見大人。
- 四爻  九四、或躍在淵。无咎。
- 三爻  九三、君子終日乾乾。夕惕若。厲无咎。
- 二爻  九二、見龍在田。利見大人。
- 初爻  初九、潜龍勿用。











2番 坤為地

坤元亨。利牝馬之貞。
君子有攸往。先迷後得主。
利西南得朋東北喪朋。安貞吉。

-   上六、龍戰于野。其血玄黃。
-   六五、黃裳元吉。
-   六四、括囊。无咎无誉。
-   六三、含章可貞。或從王事。无成有終。
-   六二、直方大。不習无不利。
-   初六、履霜。堅冰至

3番 水雷屯

屯。元亨利貞。勿用有攸往。利建侯。

-   上六、乘馬班如。泣血漣如。
-  九五、屯其膏。小貞吉。大貞凶。
-   六四、乘馬班如。求婚媾往吉。无不利。
-   六三、即鹿无虞。惟入于林中。君子幾不如舍。往吝。
-   六二、屯如。遭如。乘馬班如。匪寇婚媾。女子貞不字。十年乃字。
-  初九、磐桓。利居貞。利建侯。

64卦を求める筮法に、本筮、中筮、略筮があります。

参考：朝日選書 易 本田濟著



基本用語

八卦も大成卦も天人地三才を当てはめる。

乾卦



乾為天

上爻	天	隱退した位
五爻	天	君の位…中
四爻	人	近臣の位
三爻	人	高い位
二爻	地	位は高くないが君と意気投合する可能性…中
初爻	地	まだ世に出ていない位

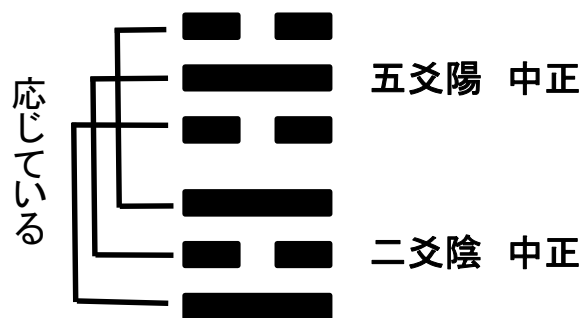
中…二爻と五爻

正…奇数爻は陽爻、偶数爻は陰爻

応…初と四、二と五、三と上の関係

応も比も陰陽の関係がよいとされる

63番水火既濟…中正で応じている卦



64番火水未濟



比…初と二、二と三、三と四、四と五、五と上の隣同士の関係

承…下の陰爻は上の陽爻を承けるという

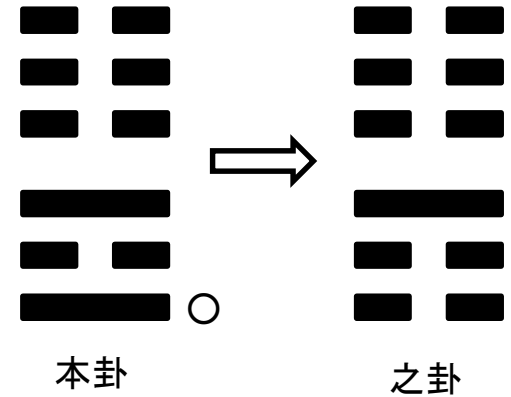
乗…上の陰爻は下の陽爻に乗るという

扱…上の陽爻は下の陰爻に扱すという



春秋左氏伝 昭公5年(紀元前537年)

穆子(ぼくし)が生まれたとき、父莊叔(そうしゆく)がこの子の将来を占って明夷の初爻が変じて謙に之を得た。そこで卜人の楚丘(そきゆう)に尋ねた。



初九 明夷于飛。垂其翼。君子于行。三日不食。有攸往。主人有言。

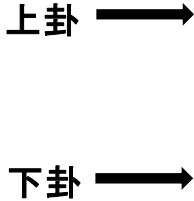
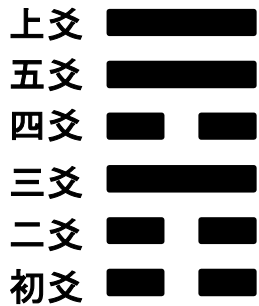
穆子は難を避け他国へ一時行きますが、戻ってきてあなたの跡を継ぐでしょう。その時、牛という名前の悪人を連れ帰ってくるため、牛の讒言によって穆子は餓死することになります。

その翼を垂れて飛ぶということは、君子は他に逃れ行くことを示しています。しかし、翼を垂れていては遠くまで行くことができずに、必ず戻ってきます。また、本卦離の火が之卦艮の山になることは、火が山を焼き山が崩れます。艮は言葉を意味し山が崩れることは人事問題にすれば讒言にあたります。山が崩れれば離だけになり、離の純卦には牛の意味があります。したがって、牛という悪人を連れ帰ります。三日喰らわずというのは、餓死することになります。

果たして、穆子が病気で床に伏したとき食事を与えられずに餓死してしまった。

互卦(互象・互体)・・・二、三、四爻を下卦、三、四、五爻を上卦としたもの

風山漸



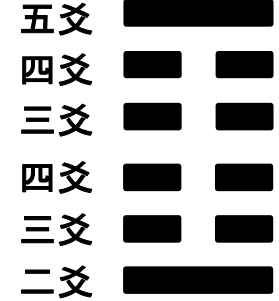
互卦火水未濟



坎爲水



互卦山雷頤

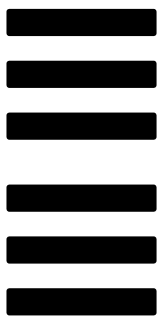


現在の状況
外部と内部

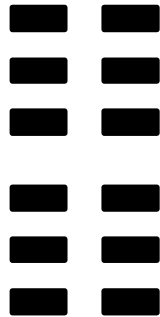
現時点における発展の方向性
外部と内部の共生関係・親密度

錯卦(対卦・旁通卦・類卦)・・・初から六爻までの陰陽を逆にしたもの

乾爲天



坤爲地



上半錯卦は地天否



下半錯卦は天地否

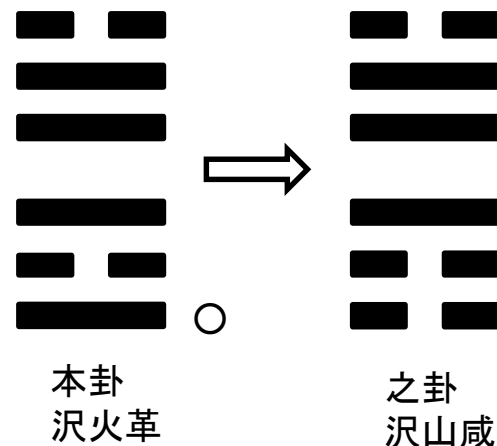


恋愛問題など横の関係で捉える手法



梅花心易 宋時代 邵雍1011年－1077年

宋の仁宗皇帝の戊辰年に、邵雍はたまたま梅の枝に止まっていた二羽の雀が争って地に落ちるのを見た。このときちょうど十二月十七日の申刻であった。辰を5として $5+12+17=34$ を8で払って余り2、上卦を兌とする。この34に申の9を加え43を8で払って余り3、下卦を離とする。さらに、43を6で払って余り1、初爻変となる。(月日は旧暦)



上卦兌は少女を表し、下卦離が火剋金として少女を傷つける象である。互卦は天風姤となり上卦乾が下卦巽を金剋木とし、本卦兌金も巽木を剋するので少女が梅の枝を折りに来るとし、巽木は離火を生じて逆に少女が怪我をする。巽に腿の意味があるので、腿を枝で怪我すと解釈した。

之卦は、上卦兌の少女は下卦艮に土生金と助けられるので、命に別条はない。

果たして、翌日隣家の少女が梅の枝を折りに来た時、花守りの子供が少女を叱ったために、少女は驚き落ちた時に枝で腿を怪我してしまった。

筮竹を使わずに自由に外応を使って卦を立てるので、この占例により梅花心易と呼ぶ。



易の三義

易簡・・・太陽は東から昇り西に沈むように、簡単で当然のこと

変易・・・昼が過ぎれば夜が来るように、物事は常に移り変わることに

不易・・・夜が来ても必ず朝になるように、法則は不変であることに



筒に置く太極は1本であるが、江戸時代真勢中州は陰陽2本とした。

第6回は「形勢風水」

